

議案第 29 号

小城市重要無形民俗文化財の指定について

このことについて、別紙のとおり提出する。

令和 2 年 2 月 27 日 提出

小城市教育委員会 教育長 大野 敬一郎

提案理由

令和元年 10 月 24 日付けで小城市文化財保護審議会へ諮問したことについて、令和 2 年 1 月 16 日付けで別添のとおり答申を受けたので小城市文化財保護条例第 25 条に基づき提出する。

これが、本議案を提出する理由である。

小城市教育委員会告示第 号

小城市文化財保護条例（平成 17 年条例第 95 号）第 25
条第 1 項の規定により、次の文化財を小城市重要無形民俗
文化財に指定する

小城祇園の山挽行事 1 件

令和 2 年 2 月 27 日

小城市教育委員会 教育長 大野 敬一郎

令和 2 年 1 月 16 日

小城市教育委員会 様

小城市文化財保護審議会
会 長 金子 信二



小城市重要文化財の指定について（答申）

令和元年 10 月 24 日付け小文第 400 号で諮問を受けた下記については、歴史的背景もほぼ明確であり、山鉾の製作方法等も他地域の祇園会とは様相を異にする特徴ある行事といえます。また、他地域では類例がない独自の姿で今日まで伝承されてきた山挽行事には、本祭での上町・中町・下町の山挽だけでなく、本祭前日までに行われる人形製作や資材奉納、山起し、前夜祭での横町の浮立奉納、当日の人形飾りや本祭後の山崩し等があります。これらは小城を代表する貴重な民俗行事であり、小城市重要無形民俗文化財として十分価値を有するものと認められます。

記

文化財名 小城祇園の山挽行事 1 件

保護団体 小城町山鉾保存会（横町区・上町区・中町区・下町区）

指定調書

- 1 種 別 小城市重要無形民俗文化財 第 号
- 2 名称及び員数 小城祇園の山挽行事 1 件
- 3 所在地 小城市小城町松尾（須賀神社）
小城市小城町松尾・岩蔵（横町区）
小城市小城町（上町区・中町区・下町区）
- 4 保護団体 小城町山鉾保存会（横町区・上町区・中町区・下町区）
- 5 概要

小城祇園の山挽行事は須賀神社（祇園社より改称—祭神は素戔鳴尊）での祇園会の際に行われるもので、「ヤマ」や「山鉾」と呼ばれる 3 台の挽山が巡行する。

寛政 12（1800）年に編纂された『元茂公御年譜』によれば、正和 5（1316）年に下総国から小城へ下向した千葉胤貞が、京都の祇園社（現八坂神社）より分霊を勧請し、祇園川沿いの東西方向で旧暦 6 月 15 日の祇園会で山挽を行ったことが始まりとされている。小城藩初代藩主鍋島元茂が寛永年間（1624～1645 年）に南北方向の通りを整備すると、山挽行事も上町・中町・下町の通りで行われるようになり、先山と跡山の 2 台の挽山が巡行していたことが『小城藩日記』や『元茂公御年譜』に記されている。

佐賀藩が天保 13（1842）年に始めた農村復興政策「郷内御再興」を小城藩領でも施行したことから、天保 14（1843）年から山挽は中止され神事のみが執り行われた。山挽の再開が確認できるのは明治 16（1883）年になってからで、この時に上町・中町・下町の三町区が参加して、現在に伝わる 3 台の挽山で行う山挽行事が確立している。上町・中町のヤマが屋台形であることに対して、下町の山鉾は軍事設備の井楼に類似することから、島原の乱[寛永 14(1637)年 10 月 25 日勃発、寛永 15（1638）年 2 月 28 日終結]では小城藩の井楼の組み方の手本になったともいわれる。

江戸時代には行事の運営を小城藩が行い、小城郡下の各郷より大庄屋の指図で集められた夫丸（人夫）が挽山をひいていたが、明治期の再興を機に上町・中町・下町の町民がそれぞれの挽山を製作し、横町が前夜祭（宵山）で浮立を奉納し安全祈願を執り行っている。現在ではこの四町区によって小城町山鉾保存会が組織され、山挽行事の保存・継承を図っている。

6 審議会の意見

小城祇園の山挽行事は、前夜祭（宵山）での浮立奉納と本祭での山挽からなる。中世期に千

葉氏によって祇園川沿いで始められたと伝えられ、江戸時代には小城藩主導の下で南北の通りに改められ先山・跡山の2台で執り行われていた。一時中断した時期はあるが、明治期には須賀神社の氏子や上町・中町・下町の町民によって3台の挽山で再興された。現在、小城町山鉾保存会が結成され小城を代表する夏祭りとなっている。民俗文化財については、歴史的背景が不明確なものが多い中、小城祇園の山挽行事についてはその点もほぼ明確であり、山鉾の製作方法等も他地域の祇園会とは様相を異にする特徴ある行事といえる。

また、他地域では類例がない独自の姿で今日まで伝承されてきた山挽行事には、本祭の山挽だけでなく、本祭前日までに行われる人形製作や資材奉納、山起し、前夜祭での横町の浮立奉納、当日の人形飾りや本祭後の山崩し等がある。これらは小城を代表する貴重な民俗行事であり、小城市重要無形民俗文化財として十分な価値を有する。

7 その他参考となるべき事項

本調書において、下町の「山鉾」と上町・中町の「ヤマ」、山鉾やヤマの総称を「挽山」、挽山をひく事を「山挽」とし文言を使い分けた。

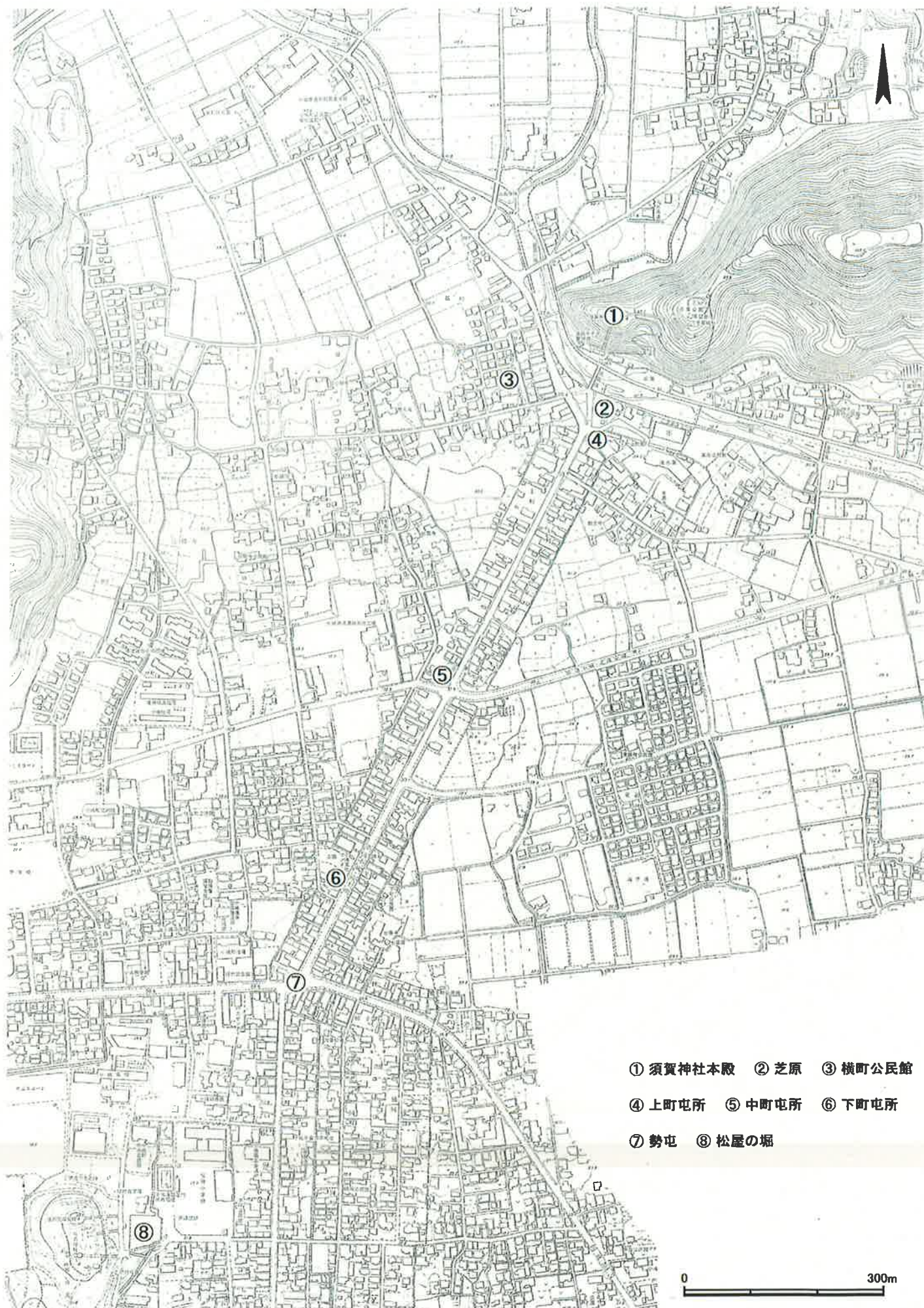
当該小城市重要無形民俗文化財の歴史的事象や指定範囲に含まれる内容については、次項の添付書類に記している。

〈参考文献〉

- ・佐賀県立図書館編「元茂公御年譜」『佐賀県近世史料』第2編第1巻 2009年
- ・佐賀県立図書館編「法花宗由緒」『佐賀県近世史料』第10編第3巻 2014年
- ・小城郡教育会編「小城山挽縁起」『小城郡誌』pp350～352 1973年 名著出版
- ・肥前史談会編「祇園宮」『肥前叢書』第1輯 pp413 1973年 新潮社
(大木惣右エ門原著・石井良一写『肥前古跡縁起』巻之下)
- ・社司福地義方編『須賀神社御由緒要誌』 1930年 県社須賀神社社務所
- ・小城町史編集委員会編「4 肥前千葉氏の成立と武家文化」『小城町史』PP184～202 1974年 小城町役場
- ・岩松要輔「小城の祇園会について」『小城の歴史』第1号 1968年 小城郷土史研究会
- ・岩松要輔「小城の祇園会について(2)」『小城の歴史』第2号 1968年 小城郷土史研究会
- ・伊藤昭弘編『小城祇園祭ー千葉・鍋島から現代へー』 2015年 佐賀大学地域学歴史文化研究センター
- ・牛津町教育委員会『牛津乙宮社日記一』 2005年 牛津町文化財調査報告書第15集
- ・小城市教育委員会『牛津乙宮社日記二』 2006年 小城市文化財調査報告書第2集
- ・小城市教育委員会『牛津乙宮社日記三』 2007年 小城市文化財調査報告書第6集
- ・小城市教育委員会『牛津乙宮社日記四』 2008年 小城市文化財調査報告書第8集
- ・一般社団法人 文化芸術の泉 アール・フォンテヌ編
『小城祇園』 2016年 小城山挽祇園700年祭実行委員会

8 添付書類

- (1) 位置図
- (2) 小城祇園の山挽行事の歴史的事象
- (3) 小城祇園の山挽行事次第
- (4) 下町の山鉾製作過程と前夜祭・本祭のながれ
- (5) 下町の年間スケジュール
- (6) 下町への奉納地区・資材一覧表
- (7) 下町の音頭とり囃子
- (8) 横町の年間スケジュール
- (9) 平成 30 年度 横町浮立巡行経路
- (10) 横町浮立の謡曲名一覧表
- (11) 横町浮立巡行先及び小謡奉納曲名一覧表
- (12) 『乙宮社日記』浮立興行記載内容
- (13) 写真



(1) 位置図

(2) 小城祇園の山挽行事の歴史的事象

『元茂公御年譜』には、次のような内容の記載がある。

- ・正和5(1316)年に下総国から小城へ下向した千葉胤貞が、祇園川沿いに東西に延びる丘陵上に祇園社を建立して、旧暦6月15日の祇園会で山挽を始めた。
- ・当初の山挽は千葉城の城下であった祇園川沿いの東西方向、上河原から下河原までの区間で行われた。
- ・丘陵の東西一面に供えた棧敷では、身分にかかわらず多くの人が集まり山挽を見物した。
- ・挽山について「下の修羅木式本ハ」とある。(当初の挽山は現在のように車輪ではなくソリ状の修羅であったと考えられる。)
- ・千葉胤貞より4代の孫にあたる元胤の時に、舞台を建て神前での能の興行が始まった。

以上、寛永15年6月15日の項

・「昔よりの口すさみに、見事見るにハ博多の祇園、人間見るにハ小城の祇園と申習ハし候」と、華麗な博多の祇園に対して、人出が多い小城祇園の山挽の盛況ぶりが記されている。

以上、承応3年6月15日の項

『小城藩日記』やその目録には、次のような内容の記載がある。

- ・江戸時代には先山と跡山(本山)の2台の挽山が巡行していた。

以上、享保8年6月15日の項ほか

『乙宮社日記』には、前夜祭の浮立興行について記載がある。

浮立奉納が始まった時期は明確でないが、『乙宮社日記』には江戸後期にはすでに浮立の興行を行っていた記載がある。

以上、天保6年6月14日の項ほか

添付書類(12)参照

「くいなわ」について

- ・下町の山鉾の組み合わせ等に用いた「くいなわ」と呼ばれる縄は、渦状に丸め協力者に配布され無病息災を願って戸口に掲げられる。

佐賀新聞にみる山挽再開時期

- ・明治18(1855)年の記事には「一昨年に比べれば」とある。(明治16年までには町人主催の祭りとして再開されたと考えられる。)

以上、佐賀新聞 明治18年7月29日の記事

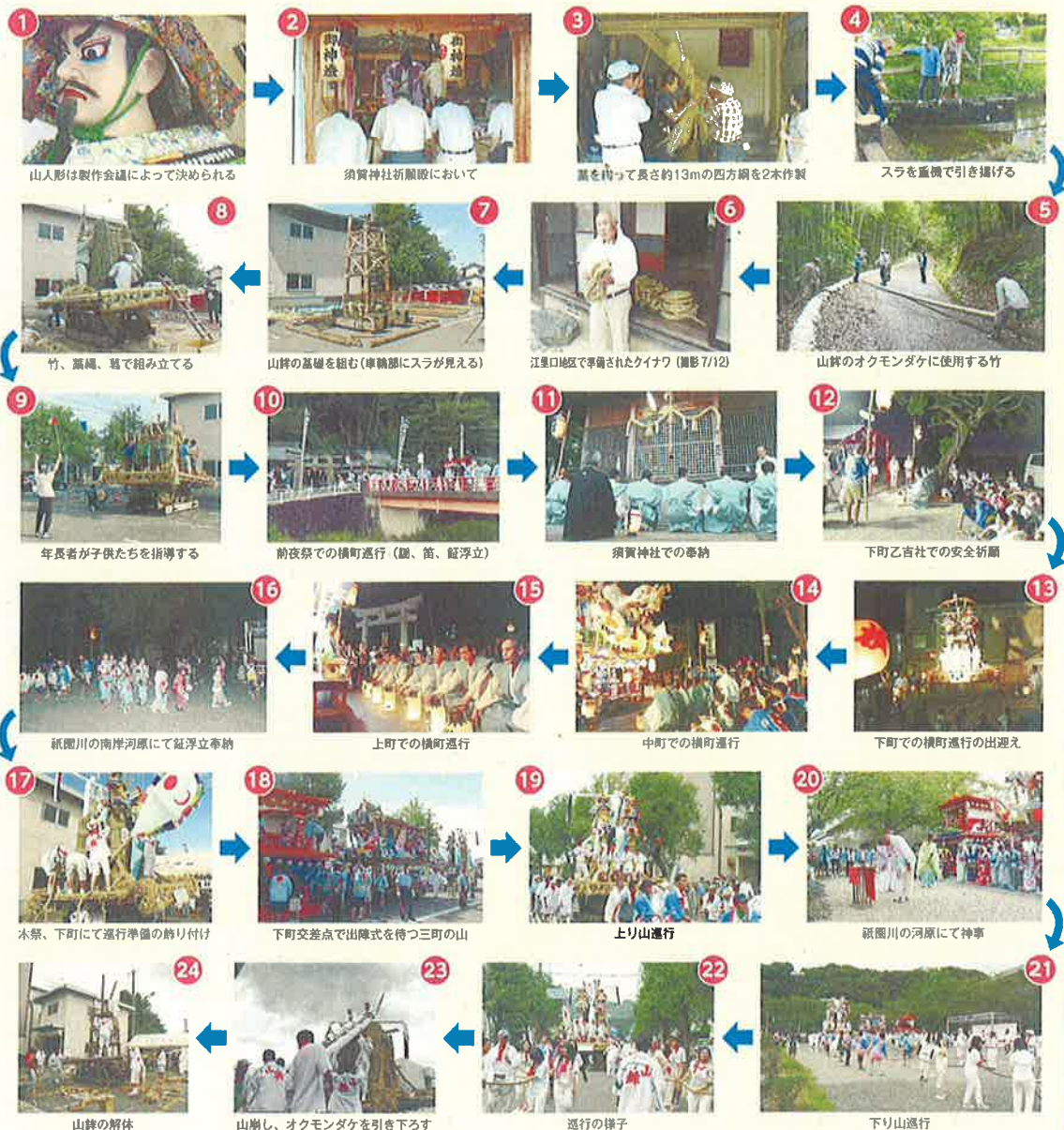
小城祇園に関する言い伝え

- ・夜になって「祇園風に吹かれると病にかからぬ」という古来よりの言い習わしがある。
- ・「ヤマをひかないと病気が流行する」という言い伝えがある。

(3) 小城祇園の山挽行事次第

行 事 名	日 時	内 容
山人形の決定	5月中旬	各町で人形製作会議等を開催し、その年の山人形を決定する。各町の公民館で6月下旬頃まで週2回程度集まり製作する。
人形飾り付け	7月第4週土曜日 朝	各町の屯所で挽山に人形を飾り付け披露される。
前夜祭(宵山) 横町浮立巡行	7月第4週土曜日 午後6時30分	横町の浮立が須賀神社本殿や下町の乙吉社で安全祈願を行い、下町・中町・上町の屯所で挽山に向かって謡を奉納する。芝原では社殿に向かって鉦浮立や舞を奉納する。
本祭 出陣式	7月第4週日曜日 午前10時	各町の屯所よりひきだした挽山は午前9時50分までに、勢屯に北から上町・中町・下町の順で並び出陣式が行われる。
上り山	7月第4週日曜日 午前10時半～11時50分	勢屯より芝原までを1時間半程度かけ巡行し、芝原に到着した挽山は社殿に向かって東側より上町・中町・下町の順に並ぶ。下町の山鉦が到着後に三町合同の手打ちが行われる。
神事	7月第4週日曜日 正午	挽山が並んだ芝原では神事が行われ、休憩に入る。
下り山	7月第4週日曜日 午後5時	下町・中町・上町の順に各町の屯所まで下り、祭りは終了する。

下町の山鉾製作過程と前夜祭・本祭のながれ



月	日	
平成27年	5	16 山人形製作会議 1 回日【写真①】 製作日：2日/週 (6月下旬頃まで)
	6	14 資料奉納依頼の為、「郷内廻り」(50町区)
		27 特殊資料奉納地区(5町区)への依頼
下旬		音頭取り人員の確認(練習日：3日/週)
	5	山人形の奉納祈願祭②、四方綱作り③
	12	山鉾部材「スラ」を池から引き揚げ④
		焼山八天神社へ竹材調達⑤
7	13-14	資料奉納受付⑥
	19	山出し⑦⑧
	24	本番前、最後の音頭取り練習⑨

月	日	
前夜祭	25	山鉾飾り付け、横町浮立の須賀神社奉納⑩⑪ 乙吉社での横町浮立による安全祈願⑫ 横町浮立による安全祈願と各町出迎え⑬⑭⑮ 紙園川南岸にて横町の謡、笛、鉦浮立⑯
	7	8時 集合・準備⑰ 10時 出陣式(下町交差点)⑰
本祭	26	10時30分 上り山⑰ 12時頃 須賀神社前(紙園川南岸)での神事⑱
		14時 下り山⑲⑳ ※列車17時～(台風12号の為)
	27	14時20分 山崩し㉑㉒ 山崩し

協力：須賀神社、山鉾保存会、上町、中町、下町、横町、江里口地区の皆様。

(5) 下町の年間スケジュール

下町	日 時		内 容
	前年10月		稲わら回収(区民の協力のもと収集) 区民の親戚農家、企業個人より奉納
	5月下旬		人形決め(人形師が集まり題材及び日程の確認会議) 作成: 週2回(木曜日・日曜日) 場所: 下町公民館
	6月上旬		奉納地区へ挨拶(7班で分担) 奉納地区(49地区)の区長宅へ挨拶訪問(添付書類(6)参照)
	6月末		音頭とり出席確認会議 子ども12~16名(1班4人を基準)
	7月初め		音頭とり練習開始 場所: 下町公民館 週2回 以前は小学6年生・中学生 現在は小学4~6年生
	7月第1日曜日	8時	山人形奉納祈願祭 山挽行事と山人形の安全祈願祭 奉納地区への返礼お祓い 場所: 須賀神社 四方綱作成作業 祈願祭終了後(以前は牛津町乙柳地区で作製 現在は下町区) 場所: 文化センター南側消防小屋・下町公民館
	7月第2日曜日		おくもん竹・男竹取り 場所: 焼山八天神社(山起しの2週間前とも) スラの引上げ 場所: 松屋の堀(山越しの1週間程前)
	7月第2月曜日・火曜日		奉納資材受付(2日間) 場所: 下町公民館 納入日に納入できない地区は個別対応 奉納資材不足分(竹)は地域区長の許可のうえ区民が収集
	7月第3日曜日		山起し 山鉾の組み立て(各班・各個人で内容分担) 場所: 屯所(文化センター南側駐車場)
	前夜祭前日 7月第4金曜日	満潮時	汐水汲み 場所: 住ノ江(小城市芦刈町)
	前夜祭(宵山) 7月第4土曜日	午前中 20時過ぎ	山鉾最終飾付 おくもん竹と人形設置 須賀神社の宮司による神事 場所: 屯所(文化センター南側駐車場) 横町の浮立出迎え 浮立による安全祈願 場所: 屯所(文化センター南側駐車場)
	本祭 7月第4日曜日	早朝 9時50分までに 10時 10時30分 12時 12時30分~17時 17時 18時~18時30分	団扇・太鼓の設置 場所: 屯所 各山集合 場所: 下町交差点(北側より上町・中町・下町) 出陣式 内容: 開会 山鉾保存会長挨拶 祝辞 運行上の注意 乾杯 閉会 上り山 上町を先頭に中町、下町が続く 11時50分までに須賀神社駐車場へ到着・三町合同手打ち 神事 内容: 挽山前でお祓い 休憩 下り山 下町・中町・上町の順 屯所到着 山崩し おくもん竹・人形・太鼓・団扇取り外し くいなわの配布(健康長寿・無病息災・家内安全)
	祇園祭翌日~翌々日	6時~	山鉾解体作業 場所: 屯所 スラを堀へ漬ける 場所: 松屋の堀 廃材処分 終了

(6) 下町への奉納地区・資材一覧表

	地 区 名	資 材 名
1	清 水	かずら
2	原 田	かずら
3	北 浦	組縄(くいなわ)
4	吉 田	組縄
5	三 間 寺	組縄
6	須ノ木	組縄
7	永 泉 寺	組縄
8	二 瀬 川	組縄
9	松 尾	組縄
10	大 日	組縄
11	江 里 口	組縄
12	大 塚	組縄
13	馬 場	組縄
14	松 本	組縄
15	江 里 山	女竹 150本
16	石 体	女竹 150本
17	砂 田	組縄
18	畑 田	組縄
19	平 原	組縄
20	鷺ノ原	組縄
21	西 谷	組縄
22	寺 浦	組縄
23	黒 原	組縄
24	峰	組縄
25	坂 井	組縄
26	門 前	組縄
27	大 江	組縄
28	船 田	組縄
29	久 蘇	組縄
30	轡ヶ里	組縄
31	東 分	組縄
32	西 分	組縄
33	岡 本	組縄
34	杉 町	組縄
35	大 地 町	組縄
36	今 市	組縄
37	深 川	組縄
38	赤 司	組縄
39	大 寺	組縄
40	初 田	組縄
41	佐 織	組縄
42	戊	組縄
43	長 神 田	組縄
44	仁 俣	組縄
45	土 生	組縄
46	本 告	組縄
47	吉 原	組縄
48	石 木	組縄
49	上 江 良	組縄
	乙 柳	四方綱作成 ※現在奉納なし

計49地区

山鉾の内容: 組みあげられた山鉾に音頭とりや太鼓打ちらが乗り、挽子が山鉾に結わえた綱をひく。

山鉾の構成: 音頭取り(小学生男子) 4名、太鼓 1名、挽子 40名程度

囃子: 太鼓を打ち、音頭棒を持った音頭とり(小学生男子)が掛け声をかける。

用具: 太鼓 1個、音頭棒 4本、大うちわ 1本

衣裳: はっぴ、鉢巻

その他: 基礎となるスラは松材で、通常は松屋の堀に浸け保管している。

「おくもん竹」は於祇園岳、「スラ」は修羅木、「くいなわ」は組縄の訛りと考えられる。

(7) 下町の音頭とり囃子

① ^{のばす} えーんえんえん ^{のばす} やっあーさ ^{力強く下げる}
^{力強く} やあ ^{力強く下げる} このやまは ^{のばす} たいへいじゃ ^{のばす}
えいやっと しめかけてー やあー

② えーんえんえん やっあーさ
やあ このやまは しめりきーじゃ
えいやっと しめかけてー やあー

③ えーんえんえん やっあーさ
やあ まあいちみゃーがとで おひよろーじゃ
えいやっと しめかけてー やあー

④ えーんえんえん やっあーさ
やあ いまのひょうしは よかったじゃ
えいやっと しめかけてー やあー

⑤ えーんえんえん やっあーさ
やあ どなたもこなたも ごくろうじゃ
えいやっと しめかけてー やあー

(8)横町の年間スケジュール(平成30年度)

横町	日 時		内 容
	7月2日	20時～	奉納浮立の小謡の稽古 師匠の指導のもと、小謡方7～8人が稽古 場所:横町公民館
	7月3日	20時～	笛の稽古 師匠の指導のもと、笛方3～4人が稽古 場所:横町公民館
	7月8日	午前中	浮立用具(鉦やバチ等)の蔵出し 提灯、太鼓、袴、はっぴ、誘導灯等の検品・確認 場所:横町公民館
	7月9日	19時～	子供鉦、踊り(小中学生)が太鼓のリードで練習 場所:横町公民館
	7月13日	7時半～	神社参道(浮立コース中心)等の掃除 場所:須賀神社
	7月13日	9時～	浮立太鼓・リヤカーの飾り付け 場所:横町公民館
	7月19日	19時半～	浮立打込(総練習) 「出立」から「納め」までを通して行う 場所:須賀神社芝原
	7月21日	18時10分 18時15分 18時30分 19時 20時 21時すぎ 21時30分	準備 場所:横町公民館 神社宮司による祝詞奏上・安全祈願 出立(横町区長宅) 神社宮司による祝詞奏上・浮立奉納 浮立奉納場所については参考書類(11)参照 神社本殿・宮地嶽神社・楠公社(大楠神社)にて浮立奉納 下宮乙吉社にて浮立奉納 下町の山鉦、中町・上町のヤマの前にてそれぞれ浮立奉納 芝原にて浮立奉納 旧ひらまつ病院にて浮立を披露 納め(横町公民館) 浮立奉納
			※以前は総代宅(2名)、区長宅をめぐって納めとなっていた。

浮立の内容: 横町の浮立は、鉦・踊り・小謡で構成されている。

浮立は七ツ鉦→踊り→三ツ鉦→小謡→三ツ鉦→小謡の順に行い、七ツ鉦を行いながら次の奉納場所へ移動。

行列の構成: 高張り提灯2人、代表2名、小謡男衆7人、太鼓1人、笛5人、大人鉦4人
子ども鉦14人、踊り手17人、竿提灯:30人

小 謡: 謡曲をもとにした14通りの小謡があり、手持ち提灯をもった小謡男衆が前に進み横一列に蹲踞
上の句を1回、下の句を2回、決められた16ヶ所で決まった2つを奉納する。

掛 声: 笛に続いて鉦や太鼓が鳴り、「アラエンヤーヤッサーヤッサー(七ツ鉦)」、
「アラサイサイ(三ツ鉦)」と掛け声をかける。

用 具: 太鼓 1個、鉦 18個(大・中・小)、笛 5本

衣 装: 高張り提灯 はっぴ、代表 紋付羽織、小謡男衆 袴、太鼓方 はっぴ、笛 はっぴ、
子ども鉦 はっぴ・鉢巻、踊り手 浴衣・前掛け・手ぬぐい

その他の用具: 太鼓はリヤカーに積載(須賀神社本殿へは女坂を担いで運搬)。

代表2名、小謡男衆7名は手持ち提灯。踊り手は筒状の銭太鼓(中学生)・団扇(小学生)。



①横町公民館 ②横町区長宅 ③須賀神社本殿前 ④宮地嶽神社 ⑤大楠神社 ⑥下宮乙吉社

⑦下町山鉾前 ⑧中町ヤマ前 ⑨上町ヤマ前 ⑩須賀神社芝原 ⑪旧ひらまつ病院

(9)平成30年度 横町浮立巡行経路

(10)横町浮立の謡曲名一覧表

番号	謡曲名	文句
1	田村	四方の山波おのずから 時ぞと見ゆる景色かな
2	高砂	なおいつまでか生きの松 それも久しき名所かな
3	養老	老いをのべたる心こそ 尚行く末も久しけれ
4	弓八幡カ	君万世と祈るなら 神に歩みを運むなり
5	老松	風もうそむく寅のとき 神の告をも待ちてみん
6	小塩カ	千代の蔭ふる小松原 鶴亀遊ぶめでたさよ
7	養老	流れの末の吾らまで 豊かに住める嬉しさよ
8	玉井	朝夕なる玉の井の 深きちぎりをたのもしや
9	鶴亀	池のみぎわの鶴亀は 宝来山よそならず 君の恵みぞありがたき
10	屋島カ	浦風までものどかなる 春や心をさそうらん
11	高砂	げにや仰ぎても こともおろかやかかる世に 住める民とて豊かなる 君の恵みぞありがたき
12	東方朔	なびく稲葉の色までも 千歳の秋のはじめかな
13	不明	行き来の人も豊かにて なお万代(よろず)よと祈らまし
14	難波	豊かなる世のためしこそ げに道広き納めなり

(11)横町浮立巡行先及び小謡奉納曲名一覧表

順番	奉納場所	(謡曲名) 文句
	横町公民館前	神事
1	横町区長宅	(12東方朔)なびく稲葉の色までも 千歳の秋のはじめかな (3養老)老いをのべたる心こそ 尚行く末も久しけれ
2	須賀神社本殿	(4弓八幡カ)君万世と祈るなら 神に歩みを運むなり (5老松)風もうそむく寅のとき 神の告をも待ちてみん
3	宮地嶽社	(6小塩カ)千代の蔭ふる小松原 鶴亀遊ぶめでたさよ (2高砂)なおいつまでか生きの松 それも久しき名所かな
4	楠公社(大楠神社)	(4弓八幡カ)君万世と祈るなら 神に歩みを運むなり (5老松)風もうそむく寅のとき 神の告をも待ちてみん
5	下町乙吉社	(9鶴亀)池のみぎわの鶴亀は 宝来山よそならず 君の恵みぞ ありがたき (8玉井)朝夕なる玉の井の 深きちぎりをたのもしや
6	下町山鉾前	(1田村)四方の山波おのずから 時ぞと見ゆる景色かな (13不明)行き来の人も豊かにて なお万代よと祈らまし
7	中町ヤマ前	(1田村)四方の山波おのずから 時ぞと見ゆる景色かな (13不明)行き来の人も豊かにて なお万代よと祈らまし
8	上町ヤマ前	(1田村)四方の山波おのずから 時ぞと見ゆる景色かな (7養老)流れの末の吾らまで 豊かに住める嬉しさよ
9	須賀神社芝原	(10屋島カ)浦風までものどかなる 春や心をさそうらん (11高砂)げにや仰ぎても こともおろかやかかる世に 住める民とて豊かなる 君の恵みぞありがたき
10	ひらまつクリニック玄関前	未確認
11	横町公民館前	(6鶴亀)千代の蔭ふる小松原 鶴亀遊ぶめでたさよ (13不明)行き来の人も豊かにて なお万代よと祈らまし (7養老)流れの末の吾らまで 豊かに住める嬉しさよ (14難波)豊かなる世のためしこそ げに道広き納めなり

(12)『乙宮社日記』浮立興行記載内容

年月日	西暦	内 容
天保4年	1833年	記載なし
天保5年	1834年	記載なし
天保6年6月14日	1835年	同十四日御神衣戸張替へ御神酒備祓之事／但宵打込ミ浮立儀ハ當年ハ御城御焼失ニ付万事つゝしニ而手輕被致候事 同十四日夜山祓有之候事 浮立も御神前計リニ而夜中ニハ不相叶
天保7年	1836年	記載なし
天保8年	1837年	記載なし (損毛年につき神事差延 9月22日より祇園会神事 22日夜山祓)
天保9年	1838年	記載なし
天保10年	1839年	記載なし
天保11年	1840年	記載なし
天保12年6月14日	1841年	十四日早旦 御戸帳替へ御神酒献備御勤之事／夜ハツ時山祓参勤仕候事 御勤有、尤浮立打入帰候事
天保13年6月14日	1842年	十四日宵御勤神楽祓夜中浮立神前興行御勤之事／其後山祓下向申候事
天保14年6月14日	1843年	十四日夜九ツ時下町より例之浮立興行仕候故、又例／之通御勤申候事、翌十五日朝御勤之事
天保15年6月14日	1844年	十三日罷帰り小城迄注縄立有之候得共山挽無シ／殊に十四日方十五日迄御隠(ママ)便ニ付鳴物停止之事、若狭殿内方御死去ニ付／御神事十六日ニ被相整候様之事、／御達有之夜ハツ半／セツ時浮立興行上町方但十四日大雨にて十五日参詣人も少し
弘化3年	1846年	記載なし
弘化4年6月14日	1847年	「夜入」／九ツ時浮立興行上町中 罷登別當町役上下二而例之通参候 (8月1日に下町小供山挽)
弘化5年6月14日	1848年	十四日夜九ツ時打入浮立興行神酒備神楽祓役出張
嘉永2年6月14日	1849年	夜二入御勤ハツ時浮立興行神酒御勤終神楽祓相揚ケ候
嘉永5年6月14日	1852年	祇園會浮立當年ハ下町廻り候ニ付、
嘉永6年6月14日	1853年	十四日御戸帳替神楽祓夜ハツ時打入浮立興行神楽祓
嘉永7年6月14日	1854年	九ツ時浮立興行ニ付御神酒上神楽祓御勤之事
安政2年6月14日	1855年	今夜夕立雨繁敷降雷鳴致し漸夜中九ツ半比方／晴方ニ相成、浮立興行ハツ過セツ時上宮致し／御郡方棧敷出張浮立相濟、頓而夜明ケ申
安政4年6月14日	1857年	十四日御衣替御神酒朝夜九ツハツ頃浮立興行、郡方出張之事

『乙宮社日記』は、牛津乙宮社の社職について西川参河正義暉が天保4年～安政4年に記したもの。
弘化2年、嘉永3年、嘉永4年、安政3年分の日記は現存しない。
山挽が中止された天保14(1844)年以降も浮立は行われていたことが確認できる。



前夜祭 横町公民館での祝詞奏上・安全祈願(平成30年度)



横町浮立巡行(平成30年度)



横町浮立巡行(平成30年度)



横町浮立巡行(平成30年度)



横町浮立巡行(平成30年度)



須賀神社本殿前での浮立奉納(平成27年度)



下町山鉾(平成30年度)



下町山鉾前での浮立奉納(平成30年度)



中町ヤマ前での浮立奉納(平成30年度)



上町ヤマ前での浮立奉納(平成30年度)



芝原での浮立奉納(平成30年度)



芝原での浮立奉納(平成30年度)



本祭 下町交差点に一列に並ぶ挽山(令和元年度)



出陣式(令和元年度)



上り山(平成27年度)



芝原に並ぶ挽山(平成27年度)



芝原での神事(平成27年度)



下り山(平成27年度)



下町山鉾の山崩し(平成27年度)



下町山鉾の山崩し(平成27年度)



下町山鉾の山崩し(平成27年度)



下町山鉾の山崩し(平成27年度)



下町山鉾のスラ(平成27年度)



下町山鉾に用いられた縄で作られた「くいなわ」